

平成30年度 第1回下野市教育委員会臨時会議事録

- 1 日 時 平成31年1月18日（金）午後2時20分～午後3時30分
- 2 会 場 細谷小学校 家庭科室（出前教育委員会）
- 3 出席委員 教 育 長 池澤 勤 職務代理者 永山 伸一
委 員 三橋 明美 委 員 石嶋 和夫
委 員 熊田 裕子
- 4 出席職員 教育次長 坪山 仁
教育総務課長 小谷野 雅美
教育施設整備室長 伊澤 仁一
学校教育課長 海老原 忠
生涯学習文化課長 手塚 芳子
文化財課長 山口 耕一
スポーツ振興課長 北條 均
学校教育課主幹兼管理主事 稲見 雄太
教育総務課副主幹 高山 倫宏
教育総務課主事 岡野 祐衣
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 11人
- 7 報道機関 0人
- 8 議事録（概要）作成年月日 平成31年3月22日
- 9 討 議
「教職員の働き方改革について」～現状と課題～

池澤教育長	<p>教育長挨拶 議事録署名委員の指名 三橋委員及び石嶋委員 討議に入る旨を伝える。 今回は「『教職員の働き方改革について』～現状と課題～」の討議を行う。 はじめに、教職員の働き方の現状と課題について、事務局概略説明をお願いする。</p>
海老原学校教育課長	<p>【説明要旨】 「平成30年度12月下野市内小中学校超過勤務時間の実態」一覧表に基づき、本市教員の1か月の超過勤務時間の平均や、全国の平日1日当たりの勤務時間と本市の比較等について説明を行う。 また、討議資料 下野市立小中学校「学校における働き方改革のために」に基づき、働き方を見直す7つの視点とそれによる2018年度の取組内容等について説明を行う。</p> <p>【働き方を見直す7つの視点】 ①会議や研修を効率的に行う ②授業研究会のもち方の工夫 ③学校行事の見直し ④休暇が取得しやすい雰囲気づくり ⑤定時退勤日の設定 ⑥文書や備品の効率的な管理 ⑦担当業務の進捗管理</p> <p>勤務時間については、出勤した際にパソコンの校務支援ソフトを立ち上げた時間と退勤時に閉じた時間を記録することで把握したものである。毎月、その記録を学校教育課の管理主事が集計して、資料を作成している。</p>
池澤教育長 石嶋委員	<p>質疑等はあるか。 学校によって差はあると思うが、勤務の開始時間・終了時間、また子どもたちの帰りの会が終わる時間を教えていただきたい。</p>
海老原学校教育課長	<p>いくつか例外の学校もあるが、8時出勤、16時30分退勤の学校が多い状況である。</p>
稲見管理主事	<p>子どもたちが帰る時間は、学校によって日課が異なるため差はあるが、およそ16時前後である。</p>
池澤教育長 三橋委員	<p>超過勤務のデータを見た率直な感想を伺いたい。 小学校と中学校の差が大きいことは予想していたが、改めて数字で確認することができた。</p>
石嶋委員	<p>中学校の養護教諭は、万が一子どもがけがをしたときのことを考え、行事や部活動の際に保健室を空けておいて、先生自身も残ってくれているのだと思う。そのことにより、1日の勤務時間が全国平均を超えてしまっているのではないかと推測した。</p>

稲見管理主事	<p>中学校の1日の勤務時間に関して、特に5月と6月が全国平均を上回っているが、宿泊学習や修学旅行が立て続けにあるので、一人しかいない養護教諭が超過勤務を強いられることが要因の一つであると考えられる。小学校の場合は、時期が分散しており、宿泊行事が重なることは少ない。また、石嶋委員のご指摘のとおり、養護教諭は部活動の終了時刻まで勤務していただいているという実態も見受けられる。</p>
池澤教育長 永山委員	<p>事務局の見解を述べていただいたが、質疑等はあるか。</p> <p>1日の平均勤務時間が12時間を超えているという月があるのは驚きである。個別の退勤時間で一番遅いのは何時なのか、把握していれば教えていただきたい。</p>
稲見管理主事	<p>データを集計した際の記憶であるが、年度始めに22時以降に退勤している教員がいた。年度始めは業務量が増えることや、新採の教員は授業の準備や公務文書の処理等に時間がかかるため、その見届けをしていただいている方の勤務時間が増えているということが要因であると考えられる。</p>
池澤教育長 熊田委員	<p>栃木県は、働き方改革検討委員会において、超過勤務の上限を月80時間とし、国の方針である月40時間を将来の目標とするという答申を出した。そのことも踏まえ、他に質疑等はあるか。</p>
熊田委員	<p>22時頃、中学校の前を通ると、電気が点灯している印象がある。小学校も21時頃まで点灯しているのを時々見かける。子どもたちのために働いていただいているということはありがたいことであり、超過勤務時間が多いことはある程度予想ができていた。超過勤務80時間以上の先生がいないようにすることは望ましいことではあるが、難しいため、徐々に減らしていく必要があると感じた。</p>
池澤教育長	<p>地域の方から、学校の照明が24時過ぎまで点灯しているという意見もいただいている。県教育委員会による学校訪問への準備や、新採用教員の正式訪問などの準備がある場合には、遅くまで業務を行っているという現状があることを教育委員の皆様にお伝えしておきたい。</p>
永山委員	<p>他に質疑等はあるか。</p> <p>部活動の遠征の引率などは、校務支援システムで把握することは可能なのか。また、その勤務時間はこのデータの中に含まれているのか。</p>
海老原学校教育課長 稲見管理主事	<p>当日は打刻することはできないが、後日入力することは可能である。</p> <p>曜日に関係なく集計した月ごとの超過勤務時間の平均と、月曜から金曜までの平日の超過勤務時間の平均との差が、休日の超過勤務時間の平均である。中学校に関しては、「休日出勤（部活動等）」ということで、「平日超過勤務時間の平均」の表の右側に、休日の超過勤務平均時間を示している。</p>
池澤教育長	<p>2017年11月から校務支援システムを利用して、市内の教員の勤務実態の把握を行った。そしてそのデータを基にして、2017年12月20日に学校教育課長を中心として働き方を見直す視点の検討会を行い、7つの視点を導き出した。また、ワーク・ライフバランスを見据えるために、2018年2月21日のイクボス宣言に至った。それに関連することとし</p>

永山委員	<p>て、教育委員の皆様からのご指摘のあった、教育委員会主催の研修会（教育研究所の部会等）のうち県の研修会と重複しているものについて、必要性の見直しを行った。これらの点に関して質疑等はあるか。</p>
海老原学校教育課長	<p>教育研究所の部会や会議の整理を行ったことは、非常に先進的であると思う。教育長や事務局の方々に感謝申し上げたい。ここで安心するのではなく、先生方の意見も取り入れながら、さらに整理していただきたい。</p>
池澤教育長	<p>統合や廃止によって、26%の会議や研修会を削減することができた。現在、県の教育委員会でも同様の動きがあるので、さらに整理を進めていきたい。</p>
熊田委員	<p>他に質疑等はあるか。</p> <p>イクボス宣言から約1年が経過し、教育委員会として把握している効果があれば教えていただきたい。</p>
海老原学校教育課長	<p>退勤時間の設定を行っている学校は多くなってきているが、実際その時間に帰るのは難しいという報告がある。まずは、学校全体に動いていただいている状況であり、現段階では、超過勤務時間が短くなっているという効果は見られていない。</p>
石嶋委員	<p>働き方改革というのは、長時間労働を防ぐということが一つの目的であるが、自分のペースで働けるようになるということが一番重要である。時間を減らすことは方法の一つであるにもかかわらず、それが目的になってしまうと、時間をかけて働くことが悪いことであるという認識になってしまう恐れがある。すると、学校にいる時間を少しでも減らすということが目的化してしまうのではないかという心配が出てくる。デイサービスや子どもの預け先等の関係から、その曜日に一番仕事ができるという人にとっては、曜日で退勤時間が定められてしまうと、本末転倒になってしまう。そのため、その人の都合で働ける幅を持つておく必要がある。</p>
永山委員	<p>石嶋委員のご指摘のとおり、方法を目的化してしまうことはよくあることである。退勤時間を決めても、結局仕事を持ち帰ることになってしまう。退勤時間が早くなり、家庭での時間が持てるようになるというのは、結果の話である。目的化してしまうと、逆に負担が大きくなってしまう可能性もある。校長先生方には、何時に帰りなさいというような設定はしていただきたくない。制度全体で考えるのではなく、それぞれの学校で、負担を減らすにはどのような工夫が必要か先生方ご自身にも考えていただきたい。教育委員会の了解がないとできないことや他の組織の協力が必要なときには、声をかけていただきたい。まずは、ご自身の工夫で、少しでも労力を減らす方法を考えていただき、結果、労働時間が減ったという組立にいただきたい。</p>
池澤教育長	<p>他に質疑等はあるか。</p>
三橋委員	<p>国分寺西小学校においては先生が少なく、仕事の兼務、さらに出張が重なることで、負担が大きくなってしまいう実態があるということを目にした。全ての小学校の平均時間が示されているが、学校の規模によって負担の大きさは変わってくるので、時間の実態だけでなく、仕事の内容も見えていくべきで</p>

池澤教育長	<p>ある。</p> <p>三橋委員のご意見の補足になるが、本日、細谷小学校の2名の先生が出張されている。すると、必然的に教頭先生や教務主任の先生が授業に出ることになる。小規模校の先生の勤務条件と、教職員の数が50人を超える学校の先生の勤務条件では、大きな差がある。その学校の状況に応じた働き方を考えていかなければならない。本市では、働き方改革の話題が出る以前から、県内の他市町に先駆けて、中学校区ごとの事務の共同実施を行っている。また、その5、6年前に導入した支援ソフトにより、教科指導以外の業務について、学校の負担を減らしている。</p>
永山委員	<p>自分の意見を言うてはいけないのではないかと考えている先生もいると思うが、同じことを考えていることも多い。自分の中で蓋をしなくて、どんどん声に出して行っていただきたい。実際に仕事をしている方々が一番よく見えていると思うので、風通しを良くしていただいて、先生方が校長先生や教頭先生に意見を言いやすい職場環境、また、各学校から教育委員会に意見を言いやすい環境にしていただきたい。意見が通るかどうかは別として、もっと意見が出てきても良いと思う。そうすることで、長時間労働の課題解決につながるのではないかと。</p>
池澤教育長 熊田委員	<p>他に質疑等はあるか。</p> <p>自分が仕事をしていて一番負担に感じるのは事務処理である。10分が6回あれば60分かかる仕事が終わるわけではなく、まとまった時間がなければ難しい。ある学校では学期末に、授業数は確保しつつ子どもたちを早帰りにし、先生方が事務処理を行う時間を作っていた。定期的に時間を作るということは、とても良い取組であると感じた。</p>
石嶋委員	<p>一番心配しているのは、働き方改革の結果、子どもたちを送り出して職員室に戻ってきた後、先生方が語り合う時間が無駄であると意識づけされてしまうことである。その日の子どもたちの様子を報告し合うことや、自分の家庭での悩みを精神衛生上話すことは必要なことであり、そのような時間は大切にしなければならない。</p>
永山委員	<p>石嶋委員のご指摘のとおりである。物事の一番の解決方法は話し合いである。話し合いは会議で行うのではなく、話しやすい雰囲気の中で意見交換することが一番早い。最近はメールでやり取りをしようとする傾向にあるが、10秒で話せることをメールで書くと時間がかかってしまうこともある。先生同士が顔を合わせて話し合うことで解決できることはたくさんあるので、働き方改革により省く対象にはしないいただきたい。</p>
池澤教育長	<p>今年、成人式の後には年輪のつどいを開催したが、そこで、宇都宮大学の教授から講話をいただいた。60代、70代の孤立化についての話であるが、その中で、あなたには友達が何人いるかという質問があった。それに対して、自分にはメールをする友達がいるから孤立しないと答えた方がいた。しかし教授は、メールは逆に孤独になっていく道具で、生の声で話して初めて生き永らえたとおっしゃっていた。ある学校の校長先生が、自分の考えを伝える</p>

<p>海老原学校教育課長</p>	<p>ために職員にメールを送ったという事例があったが、実際に自分の言葉で意見を交わさなければならない。</p> <p>教育委員の皆様の意見を踏まえ、協力しながら、明日も行きたくなるような職場環境づくりに取り組んでいきたい。また、先生が楽しくなければ、子どもも学校は楽しくないので、子どもたちが行きたくなるような学校づくりをしていきたい。</p> <p>続いて、次第にはないが、その他として海老原学校教育課長に報告事項として説明をお願いする。</p> <p>昨日行われた第10回教育委員会の議案第42号「小中学校通学区域における規則の一部改正について」審議をいただいたところであるが、その際に、自治会名の変更の期日が明確でなかったことについて報告させていただく。自治会担当課には自治会名の変更があった時点で、連絡をしていただくようお願いしたところである。</p>
<p>池澤教育長</p>	<p>次回の教育委員会は2月14日（木）の午後1時30分の予定とする。本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午後3時30分閉会。</p>